

つきたい力

取組みの概要・ポイント

情報活用能力を「意識」し、自分に合った
 「学び方を選択」し、主体的に「学びをアウトプット」できる

1. 意識化: 児童・教員双方が共通のものさし(南三小版ルーブリック)を活用し、現状と目標を共有
2. システム化: 情報活用能力の年間計画を作成し、どの教員でも授業でICT活用を推進できる土台を確立
3. 相似形: 授業参観WeekやICT研修など、教員の挑戦と成長を促す環境を整備し、その成果を児童の学びへ接続

具体的な取組みの内容「意識化」「システム化」「相似形」

～「ICT活用」を特別にしない!教員と児童の意識を変えた3つのPOINT～

【POINT1:意識化】

目標が「見える化」!児童が自分で伸び方を
 決める「情報活用スキルルーブリック」

1. 情報活用能力の目標を言語化し、ルーブリック(児童用・教員用)を開発。
2. 全学年で共有し、授業評価や学習目標設定の「共通のものさし」として活用。
3. 子どもが「伸ばすべき力」を意識化し、主体的な学習姿勢を育成。

児童用

1年生	じょうほうかつようスキルルーブリック	名前()
1. 情報活用能力の目標を言語化し、ルーブリック(児童用・教員用)を開発。		
2. 全学年で共有し、授業評価や学習目標設定の「共通のものさし」として活用。		
3. 子どもが「伸ばすべき力」を意識化し、主体的な学習姿勢を育成。		

教員用

1年生	情報活用スキルルーブリック
1. 情報活用能力の目標を言語化し、ルーブリック(児童用・教員用)を開発。	
2. 全学年で共有し、授業評価や学習目標設定の「共通のものさし」として活用。	
3. 子どもが「伸ばすべき力」を意識化し、主体的な学習姿勢を育成。	



【POINT2:システム化】

授業で「いつ使うか」がわかる年間計画と
 「やってみよう」と思える活動空間の整備

1. 授業で「いつ、どのスキルを使うか」がわかる年間計画を作成・共有し、指導を系統化。
2. プレゼンテーションルームなど、創造的な活動のための空間を整備。
3. 年間計画で教員は、見通しを持って準備ができ、プレゼンテーションルームで児童は、「いつでも気軽に」話し合い、プレゼンテーションに挑戦できる。

情報活用能力 年間計画

3年生	情報活用スキルルーブリック
1. 情報活用能力の目標を言語化し、ルーブリック(児童用・教員用)を開発。	
2. 全学年で共有し、授業評価や学習目標設定の「共通のものさし」として活用。	
3. 子どもが「伸ばすべき力」を意識化し、主体的な学習姿勢を育成。	



プレゼンテーションルーム



【POINT3:相似形】

「教員の成長」が「子どもの伸び」に直結!
 全校で定着を促進

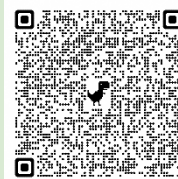
1. 授業参観WeekやICT研修など、教員の挑戦と成長を促す環境を積極的に整備。
2. 「こんな授業ができるよ」という提案授業を実施し、教員間の指導スキルを共有。
3. 教員の自信を児童の学びへ接続し、主体的・協働的な学習姿勢を育成。

ICT研修&提案授業

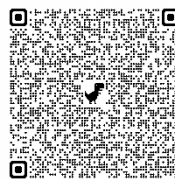


詳しくはこちら
 大阪狭山市立南第三小学校
 特設ページ

モデル校の 取組み



学校公開資料



取組みを通しての子どもの変容

ICT機器の基本的操作が定着し、子どもたちは情報活用能力を意識して学習に取り組むようになった。その結果、学び方の選択肢が増加し、自分に合った学び方を選択できるようになった。さらに、クラウド上での協働的な学びが促進され、主体的な学習と表現力の向上が見られた。